



# 補習校だより

平成29年度 第22号

平成29年10月21日発行

マイアミ補習校

校長 實藤 哲夫

事務（携帯） 305-505-6493

校長（携帯） 917-521-5768

ホームページ miamihoshuko.org

E-mail miamihoshuko@hotmail.co.jp

## 読書の秋、そして「…読の秋」

10月に入り、秋本番を迎えました。日本では「食欲の秋」、「スポーツの秋」などと言いますが、子ども達にお薦めしたいのは「読書の秋」です。先日PTA 図書担当から“読書大賞の中間発表”をしていただきましたが、この季節にはたっぷり読書をして今年の“読書大賞”を目指してほしいものです。

「読書」と言うと『黙読』を思いがちですが、他にもあります。声に出して読む『音読』、作品の価値や特性を音声で表現する『朗読』など、様々です。国語の教科書では、この時期に学習する下巻の最初には“読みもの教材”が目白押しです。しかも名作揃いです。小1の「くじらぐも」に始まり「お手紙」「ちいちゃんのかげおくり」「ごんぎつね」「大造じいさんとガン」「やまなし」と、これらの教材は他のものには変わりありません。中学校用の教科書でも「竹取物語」「平家物語」「奥の細道」と古典の名作に触れていきます。

単元名は小学校低学年で“こえにだしてよもう”や“音読げきをしよう”と音読をするところから始まって、感想を持ち、話し合ったり・伝え合ったりしながら「自分の感じたことを、朗読で表現しよう」と深まっていきます。つまり、音読や朗読をすることで『声に出しながら』作品の内容や価値、特性を読み取っていき、読み取ったことを『声に出しながら』表現していくのです。

また、朗読は“読み手”と“聞き手”を繋ぐ役目もします。『読み聞かせ』は、その典型です。秋の夜長、ご家族で自分の気に入っている本を持ち寄り、家族で“朗読会”を開いてみるのはどうでしょう。古い教科書を引っ張り出して、お子さんが既に学習した読みもの教材を朗読すれば、大拍手が起ること請け合いです。

## 熱気に包まれて～競技委員説明会

運動会に向けて、子ども達が“燃えあがって”いますが、保護者の皆様も“燃えあがって”います。先週は各競技の担当になった競技委員さんに集まっただき、説明会が開かれました。今年も40名を超える保護者の皆さんに担当をお願いしています。

子ども達と一緒に、“心をつないで燃えあがれ！”。



【国語「くじらぐも」～小1】



【国語「やまなし」～小6】



【全校朝会室いっばいに熱気が！】